



校
訓

理想は高く
心清らかに

教育
目標

未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい
生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～

社会人の基礎基本 (時間を守る)



日本人は時間に甘いと言われますが、皆さまはいかがお考えでしょうか。いろいろな場合等がありますが、「どうせ時間通りには始まらんが。」とか、「5分、10分遅れたっちゃ、皆がそろそろまで待っといやっど・・・」という意識が結構あるのではないのでしょうか。

昔から「球磨時間」とか「〇〇時間」などと言われて、15～20分遅れて始まる会合を何度も経験しました。時間通りに会場に行った者がえらい迷惑するわけです。だから、これまで正直言って「どうせ時間通り始まらんとなら、次から自分も遅れて行こうかな・・・」と思って、実際少し遅れて行ったこともありました。

そんな環境の中にどっぷりつかっていた私が、目からウロコが落ちる経験をしたことがあります。チェコのプラハ日本人学校に勤務していた時のことです。ある日、チェコの学校とプラハ日本人学校の合同バス旅行がありまして、一人のチェコ人の子どもが発発時間に遅れたんです。お母さんが車で送って来ておられて、プラハ駅前の駐車場に車を入れようとしておられるのが見えました。駐車場から私達が乗っている貸し切りバスまでは歩いて2～3分ぐらいの距離でしたが、出発時間の8時30分になったらピシャッと出発したのです。

当然その子を待っているものと思っていた私達日本人学校の教師はびっくりして、チェコの先生に「どうしてあの子を待っていないんですか？」と尋ねました。すると、「遅れてきた子が悪いんです！」と平然として言われました。さらに、「待っていたら時間通りに来た子はどうなるんですか？遅れてきたのを容認していたら、次から時間を守らない子が増えますよ。時間通り実施するのが参加者全員への公平かつ平等な対応なのですよ。」と言われるのです。「そぎゃん言うたっちゃねー！」と、つい球磨弁で隣の横浜出身の先生に語りかけていました。

チェコ人の時間に対する厳しさにびっくりするやら腹が立つやら。「なんて冷たいんだろう。なんて優しさが無いんだろう。」と一人憤慨しておりました。しかし、冷静になってチェコの先生の言葉を振り返ってみますと、われわれのこれまでの対応、つまり、大幅に遅れた子がいても、やって来るまで待っていたり、場合によっては家まで迎えに行ったりすること、こういう対応は本当に正しいのだろうかという疑問も湧いてきましてね。「自立した人間を育てていくうえで、これでいいんだろうか？」「思いやりや優しさというが、そういうことで子ども達は逆に甘えてしまっていたのではないか？」といった様々な思いが浮かんできましてね。時間についていろいろと考えさせられた出来事でした。

今、毎朝遅刻調べをしています。なかなか遅刻者がなくなりません。しかも、遅刻をする生徒はほとんど同じ生徒です。時間をきちんと守ろうとする意識が極めて低いとしか言いようがありません。チェコ人の時間に対する厳しさを見習って欲しいものだと思います。時間を守るのは社会人としての基礎基本ですから。基礎基本が身に付いていない人は社会に出ても自立した生活は送れません。ご家庭でも話題にしていただけなら有り難いです。